

序 文

平成5年に特殊教育の新たな教育の形態として施行された「通級による指導」は、その後の教職員配置改善計画の実施等により、全国に普及することとなった。いわゆる通級指導教室は、言語障害、難聴、弱視、情緒障害等の子どもたちに対する教育の場として、それぞれの地域の実情に応じて活用されてきたが、実際に指導を進めていく中で、そこでの指導と在籍学級における指導との相互の連携の必要性が重要視されるようになってきた。特に、聴覚障害の場合には、障害そのものの本人の受けとめ方、あるいはそれに対する周囲の友達や教師の理解の有り様が、難聴の子どもが学校生活を円滑に進めていく上での大切なキーポイントであると指摘されるようになった。

そこで、聴覚・言語障害教育研究部難聴教育研究室では、平成12年度より3年計画で、「聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業」をテーマとし、学校現場と協力しながら実践的な研究を進めてきた。

本研究では、聴覚障害をどのように受けとめるかということから議論を始め、難聴の子どもが通常の学級でどのような場面に遭遇し、そこでどのように対処しているのかについて、実際に難聴特殊学級や通級指導教室を担当している先生方から資料として提供していただき、学校生活における実態を把握することに努めた。その上で、聴覚障害の理解を促すための教材を開発したり、在籍学級に出向いて実際に指導を行うなどの試みを進めた。報告書には、こうした経緯の中でまとめられた具体的な実践例も盛り込むことができた。

小学校の教育課程には、新学習指導要領に基づき、「総合的な学習の時間」が設けられることとなった。通常の学級の子どもたちに対して、障害にかかわる授業を行うことも一つの活動例として広く実践されつつあることから、今回の研究は、小学校における今後の様々な実践の有り様を模索する上でのヒントを提供することにもつながると言えよう。

平成14年10月に公表された「今後の特別支援教育の在り方について(中間まとめ)」によれば、これからは通常の学級における様々な教育的ニーズのある児童生徒に対し、それぞれ必要な支援が行われるようになると推測される。こうした中では、障害の理解あるいは障害のある子どもとのかかわりについて、更なる実践的な研究が求められることになる。今回の研究がその礎になれば幸いである。

本研究を進めるに当たって、幅広い知見を紹介していただいたり、具体的な実践例を提供していただいたりした研究協力者の方々に厚くお礼を申し上げますとともに、各学校における更なる実践が難聴の子どもたちの豊かな学校生活の確立につながることを期待したい。

平成 15年 3月

聴覚・言語障害教育研究部長

宍戸 和成

目 次

1 . 研究の概要	1
2 . 研究経過	1
3 . 聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業 開発にあたっての検討項目 (中瀬浩一)	2
4 . 聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業 (大崎美保)	5
5 . 聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業 (田原佳子)	15
6 . 聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業 (宮内まり子)	25
7 . 障害理解のためのビデオ教材づくり (鷺尾純一)	36
8 . 障害を理解するとは？ (菅井邦明)	40
9 . まとめ (佐藤正幸)	42
資 料	44

研究の概要

本研究は、聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業の構築を行うことを目的とした。本研究の内容としては、まず聴覚障害理解に関する情報を整理し、教材開発のための基礎資料を収集し、教材の開発及び試作を行う。そこで開発及び試作された教材を活用して、聴覚障害理解の授業に関する試案を作成し、実際に授業を行なったことである。さらに、これらの授業について授業を受けた児童生徒からの感想をもとに評価を行った。

本研究は、主として通常の学校に在籍する聴覚障害のある児童生徒に対する理解に焦点をおき、聴覚障害のきこえの理解、補聴器の理解に留まらず、コミュニケーションの理解など広範囲にわたって教材開発及びそれを活用して授業の構築を行うところに特徴がある。

研究経過

本研究では、まず、聴覚障害理解のための教材開発を行うにあたっての検討項目を整理した。それに基づいて4人の研究協力者に教材開発及び授業実践を行ってもらった。それと同時に聴覚障害理解のための授業に関する調査を行った。調査報告は第8回アジア太平洋聴覚障害問題会議及び独立行政法人国立特殊教育総合研究所紀要第29巻で報告した。これらの報告は巻末に資料として掲載した。

さらに、大学生による聴覚障害理解のための教材開発、論考として「障害を理解するとは？」を掲載した。

*なお、研究協力者の1人である田嶋恵美子先生の実践報告については、平成14年3月に刊行されたプロジェクト研究報告書「通常学級において留意して指導することとなっている児童生徒に対する指導および支援体制の充実・整備等に関する研究」(平成11年度～平成13年度)に掲載されています。

田嶋恵美子・佐藤正幸：通常学級における聴覚障害の理解・啓発指導について
プロジェクト研究報告書「通常学級において留意して指導することとなっている児童生徒に対する指導および支援体制の充実・整備等に関する研究」(平成11年度～平成13年度)
独立行政法人国立特殊教育総合研究所,105-109.